

赤旗

2019. 6. 18

# 「原発ない方がいい」

## 岐阜のパレード中3が共感

岐阜市で16日、33回目の「さよなら原発パレード」が行われ、130人が参加しました。

伊藤久司実行委員長

は「原発を動かすために太陽光発電などの再生可能エネルギーを抑えてしまうことは本来、転倒。電気は余って原発いらぬの声をあげていら」と訴えました。

「電気をカエル計画」代表の石井伸弘さん(北方町)が「本当に電気は余っている。新電力に切り替えればもっと安くなる。地域新電力でエネルギー自治を取り戻そう」と呼びかけました。

集会後「やめよう原発、とめよう再稼働」

とコールし市内を宇野行進。信守待ちの女子中学生3人組(14)は、「原発事故で家に住めなくなったら大変です。やっぱり原発はない方がいいです。頑張ってください」と口をそろえて語りました。

「フクシマを忘れない」の横断幕を先頭に行進する参加者(16日、岐阜市



中日新聞

2019. 6. 17

「さよなら原発」

パレードで訴え

岐阜で100人参加

脱原発を訴える「さよなら原発パレード」が16日、岐阜市中心部であり、百人が参加した。

市民団体「さよなら原発・ぎふ」の主催で、東日本大震災で原発事故が起きた二〇一一年から、年四回のペースで開き、これが三十三回目。「電気は余ると原発いらぬ」をスローガンに掲げ、JR岐阜駅南

側の清水緑地を出發。「さよなら原発。命が大事」「福島事故は終わったらんなどシリアシゴールを上げながら、柳ヶ瀬方面まで一歩を歩いた。

(下條大樹)

「原発いらぬ」と声を上げながら街中をパレードする参加者たち。JR岐阜駅周辺で